

**製品名: CD296 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08328**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	37kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ART1
別名	ART1; GPI-linked NAD(P)(+)-arginine ADP-ribosyltransferase 1; ADP-ribosyltransferase C2 and C3 toxin-like 1; ARTC1; Mono(ADP-ribosyl)transferase 1; CD296
遺伝子 ID	417.0
SwissProt ID	P52961
免疫原	抗血清はヒト ART1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

**背景**

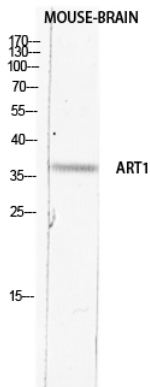
ADP リボシルトランスフェラーゼは、タンパク質中のアルギニン残基の ADP リボシル化を触媒する。モノ ADP リボシル化はタンパ

ク質の翻訳後修飾であり、コレラ、百日咳、大腸菌の易熱性エンテロトキシンなど、様々な細菌毒素によって阻害される。アミノ酸配列は主に疎水性の N 末端領域と C 末端領域で構成されており、これはグリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー型タンパク質の特徴である。この遺伝子は以前は ART2 と命名されていた。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性:NAD(+) + タンパク質-L-アルギニン = ニコチンアミド + N(オメガ)-(ADP-D-リボシル)-タンパク質-L-アルギニン。触媒活性:NADP(+) + タンパク質-L-アルギニン = ニコチンアミド + N(オメガ)-(2'-ホスホ-ADP)-D-リボシル)-タンパク質-L-アルギニン。類似性:Arg 特異的 ADP-リボシルトランスフェラーゼファミリーに属します。、

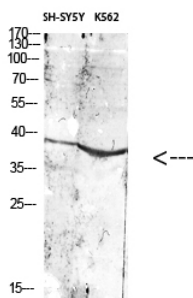
## 研究分野

-

## 画像データ



ART1 抗体を用いたマウス脳溶解物のウェスタンブロット解析。抗体は 1:2000 に希釈。二次抗体は 1:20000 に希釈。



1:1000 に希釈した抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。